

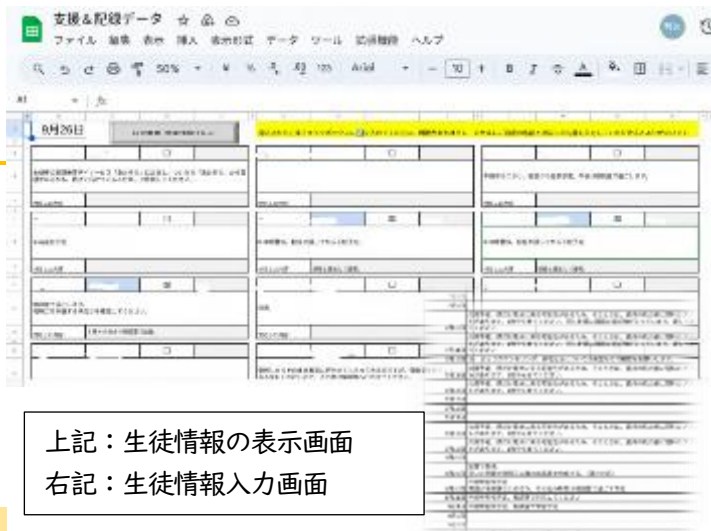
こんな先生方の姿が生まれました!

- 不登校傾向の生徒や保健室や相談室を居場所とする生徒の情報を教員全体で共有し、生徒一人一人に応じた対応をブレなく行うことができるようになってきた。
- 不登校傾向の生徒や保健室や相談室を居場所とする生徒へ全教員で目を向ける意識が高くなってきた。

生徒情報の共有を図る場の設定

不登校傾向の生徒や保健室や相談室を居場所とする生徒の情報(その日の生活の動き・約束)を共有するためのスプレッドシートを設定

- ・各教員の端末や親機から、生徒のその日の学校生活の動きや約束を入力する。
- ・生徒の情報を教員全員が共有し、誰もが共通した行動ができる状況を生み出す。
- ・対応した教員が、その時の状況を入力し、教員全体でその日のことを共有することで、翌日の対応に反映できるようにする。



上記：生徒情報の表示画面
右記：生徒情報入力画面

活用のポイント

- 教員(担任・学年教員)が具体的に生徒情報(その日の約束や動き)を入力し、全教員が必ず目を通し、その時の状況を把握することで同じ対応を確実に行う。

ICT 端末を活用した効果



生徒への対応後、対応した内容や生徒の状況を入力し、全教員が共有できるようにしている。

全教員の生徒情報の把握により、 生徒へ目を向ける意識が向上

「今日、〇〇さんは□□をするんだね」「〇〇さんが、△△を頑張っていましたよ」などの声が上がリ、関係生徒の情報を共有することにつながった。その結果、担当教員だけでなく、様々な教員が関わることで、多面的な関わり方が生まれ、様々な情報共有ができるようになった。

端末内で情報を共有できる

時間のない中でも、端末内での情報共有ができたことで、関係生徒一人一人への対応を、全教員がブレなく行うことができるようになってきた。

活用継続のポイント

- 生徒の情報が分かり次第、速やかに入力する。
- 出勤から退校までの間、定期的に表示画面を見る習慣をつくり、生徒への意識をもち続ける。